

公共職業訓練関連労組連絡会 - 情報交換会を開催

連合北海道は5月19日、札幌市・北海道職業能力開発センター（ポリテクセンター北海道）で北海道公共職業訓練関連労組連絡会の情報交換会を開催した。

この連絡会は北海道の産業人材育成を担う北海道職業能力開発大学校と障害者職業センター及び全道に4か所あるポリテクセンター（雇用労）と障害校を含め全道に9か所ある道立高等技術専門学院（自治労全道庁）の労働組合で構成されるもの。8回目の情報交換会となった今年は、各機関の現状と課題、及び10月に開催を予定する公共職業訓練に関するシンポジウムの企画について話し合った。



—さらなる連携と情報共有で課題の解決に取り組む—

連合北海道による提起では、ポリテクセンターの運営協議会や北海道地域訓練協議会（道労働局所管）、労働政策審議会（厚労省所管）、北海道労働審議会職業能力開発部会（道庁経済部所管）における議論内容を紹介し、各公共職業訓練機関で今後留意すべき課題について説明した。

各機関からの現状報告では、開発校・ポリテクセンターにおいて、①在職者訓練のなかのレディメイド訓練（あらかじめ設定されたカリキュラムに沿って実施する）について、ニーズが高いIT・資格取得関連・基礎的技術習得などに関するコースを設定できない縛りがあり、受講率が低くなっていること、②常用雇用の就職率が問われるが、地域事情などや条件の違いがあること、③電気系人材の需要が高いが、志望・供給とのミスマッチを起こしていること、④定員充足率向上に向けた広報・周知方法の課題と先進的な取り組み - などが話された。道立技専では、①指導員の深刻な欠員があるにもかかわらず採用試験がなかなか実施されない状況、②指導員数が少なく休暇取得がままならないこと、新規指導員への指導・育成が課題であること - などが話された。

これらの課題については、連合北海道及び機関労組との連携・情報共有をさらに進めながら解決に向けた取り組みを進めることとした。

—10月に「職業訓練フォーラム in 北海道」開催を確認—

また、公共職業訓練の存在とその必要性を広く社会に訴えていくために企画するシンポジウムについては、10月28日（土）に開催することを全会一致で確認。シンポジウムの名称は「職業訓練フォーラム in 北海道 - ものづくりと公共職業訓練の役割」にし、パネルディスカッションでは雇用労、自治労全道庁高等技専評議会の代表者がパネリストとなり、自ら公共職業訓練の現状を語ることとした。

詳細については、引き続き打ち合わせを重ね、集会の成功に向けて各機関が協力して取り組んでいくことを意思統一し意見交換を終えた。